古語には刀をばヒといひけり、此物の實核、角ある事の刀に似たれば、此名ありけるにや、さらばシと云ひしは詞助なり、魚をとる器に、ヒシといふものゝあるは、此物に因りて名づけ云ひしと見えたり、

〔倭訓栞前編比二十五〕ひし　菱子を訓せり、蒺藜もよめり、鰭蹄（ヒレシ）の義なるべし、ひし蔓ともいへり、菱に兩種あり、小なるを黑菱といふ、稜硬して人を刺す、大なるは稜脆し、參河國岩堀の菱は二稜也といへり、

〔宜禁本草乾五菓〕芰實　甘平冷、一名菱角、江淮乾以代粮、不能療病、多食生蟯虫、令人藏冷損陽氣、痿莖或腹脹飲姜酒、卽消、主安中補五藏、與蜜合食生虫、

〔本朝食鑑三水菜〕菱和名比之、今亦同、

集解湖澤處處多有之、菱子落于泥中、最易生發、三月生蔓延引葉浮水上、扁而有尖、光面如鏡、葉下之莖有股如蝦股、一莖一葉兩兩相差如蝶翅狀、五六月開小白花、背日而生、晝合夜炕、隨月轉移、其實有數種、或三角兩角四角無角、嫩青老黑、葉實俱小、其角硬直刺人、謂之烏菱（クロヒシ）、嫩時剝食甘美、老則蒸煮食之、一種種于陂塘、葉實俱大、角耎而脆、亦有兩角彎卷如弓者、其色有青紅紫、此亦與烏菱同、煮熟作果、野人以爲救荒之具者也、近世取菱殼燒作紫灰、以入香爐、能保火、故人以爲珍焉、

氣味、甘冷無毒、多食傷人、主治、解暑及傷寒積熱、止消渴、解酒毒、

〔重修本草綱目啓蒙二十二水果〕芰實　ミズモグサ古歌　ヒシ　一名翻鷄事物異名　紫角　子陵共同上　胡速兒事物異名、蒙古ノ名、　菱角本經逢原　水菱本草蒙筌　蟾蜍股事物紳珠　未栗實鄕藥本草　菱栗村家方　花一名水客事物紳珠　穿萍名物法言

水澤中ニ多ク生ズ、根ハ水底ニアリテ、葉ハ水面ニ叢生ス、形扁シテ蛺蝶ノ翅ノ如ク、厚クシテ光リアリ、其莖フクレテ蝦蟆ノ股ノ如シ、夏花ヲ開キ實ヲ結ブ、形三角四角或兩角アリ、ソノ角皆尖